コラム
No. 107

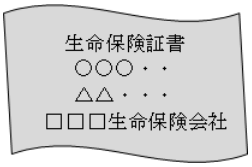
保険のはなし
～保険の必要性の考え方～

令和３年４月作成

今回は保険が必要とされる個別のケースについて少し考えてみたいと思います。

多くの人が加入している**死亡保険であっても、その人の置かれている状況によってはその必要性が異なってきます**。よく**就職したての若い人が高額の死亡保険に加入しているケース**を見るのですが、果たして本当に必要でしょうか。仮に今その人が亡くなったとして、お金を必要とする人がいるでしょうか。もし迷惑をかけたくないと考えても必要なのは葬式費用くらいでしょう。そう考えると**高額な死亡生命保険は不要**です。一方で、**働き盛りでお子さんもいらっしゃる人であれば**、御自身の稼ぎに経済的に依存している人がいますので、急に亡くなった際、**残された家族の当面の生活費や子供の学費等の備えは必要**でしょう。また、逆に**子供も独立して扶養家族が少なくなればそれほど高額な保険は必要なくなる**こともあります。従って、**人生それぞれのシーンに応じて必要な保険も変わる**ということです。また、このようなことに対応して、60 歳までの死亡保証は高額であるけれど、それ以降は補償額が引き下げられるような保険（定期保険特約付終身保険等）もあります。これらの保険は**、一つの保険商品に複数の保険内容が組み合わされているため、一見便利に見えますが、本来別々に加入したほうが、必要に応じて保険内容を見直しやすい補償内容を個別には見直せないなどのデメリット**もあります。

また、**保険を貯蓄の手段として考えている人も多いかもしれませんが、これもよく考える必要があります**。他の手段で貯蓄を行っている人が、例えば養老保険などの商品を利用して、補償と貯蓄の両方のニーズを賄うのはいいかもしれませんが、貯蓄性の保険のみで貯蓄を行うというのは問題があります。**預貯金と異なり、保険商品を現金化するには保険契約を解約等する必要があるため時間がかかりますし、中途解約等をすると、満期で受け取れる金額や支払った保険金額より少額の現金しか手にできない**からです。

また、今までの話のように、そもそも保険は万が一の事故に備えるためのものです。逆に言えば、すでに**万が一の事態への備えが十分できているのであれば、追加で保険に入る必要はないともいえるの**です。日本には高額医療制度があるため、保険適用の治療だけで十分と考えれば、保険に加入する必要はないかもしれません。一方で**自動車を所有している人は、万が一事故などを起こした場合、自賠責保険だけでは賄えない可能性は高い**です。また、前回もお話しましたが最近では**特に自転車保険（個人賠償責任保険）の必要性は高まっている**と思います。自転車は手軽な乗り物と認知されている一方で、万が一事故を起こした場合には自動車と同じような責任を負うことになります。自治体によっては自転車保険の加入を義務付けている地方もありますので、一度確認してみることをお勧めします。

いずれにしても、**加入する必要がない保険に沢山加入している人がいる**一方で、保険に加入したほうが良いと思われる人が**必要な保険に加入していない**ケースは多々見られます。**過去に入った保険の見直しをせずに、現在の状況に必要な保障とずれている**人もいます。このコラムを読んだ方は、これを機に現在のご自身や家族の状況に応じて、保険の見直し又は加入を検討してみてはいかがでしょか？　ご自身では判断ができないという場合には専門家に相談することも有用です。